

令和5年3月8峰町議会定例会会議録（第2日）

令和5年3月14日（火曜日）

議事日程第2号

令和5年3月14日（火曜日）午前10時開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 一般質問

出席議員（12人）

1番 笠原吉範	2番 伊藤一八	3番 奈良聡子
4番 芦崎達美	5番 水木壽保	6番 菊地 薫
7番 腰山良悦	8番 見上政子	9番 須藤正人
10番 門脇直樹	11番 山本優人	12番 皆川鉄也

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

町 長 堀内満也	副町長 日沼一之
教育長 川尻茂樹	総務課長兼 新型コロナウイルス 総合対策室長 和平勇人
税務会計課長 成田拓也	企画財政課長 高杉泰治
福祉保健課長 石上義久	教育次長 山本節雄
学校教育課長 山内章	産業振興課長 山本 望
農林振興課長 浅田善孝	建設課長 石嶋勝比古
農業委員会事務局長 工藤善美	生涯学習課長 今井利宏
あきた白神体験センター所長 菊地俊平	防災まちづくり室長 内山直光

議会事務局職員出席者

議会事務局長 佐々木 高	議会事務局庶務係長 須藤 佳奈子
--------------	------------------

午前10時00分 開 議

○議長（皆川鉄也君） おはようございます。

傍聴者の皆さんには、朝早くからご苦勞様でございます。

ただいまの出席議員数は12名です。定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、八峰町議会会議規則第124条の規定により、3番奈良聡子さん、4番芦崎達美君、5番水木壽保君の3名を指名いたします。

日程第2、一般質問を行います。

順番に発言を許可いたします。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） おはようございます。傍聴の皆様には、朝早くからご苦勞様でございます。

議席番号1番笠原吉範。通告に従いまして一般質問をいたします。

本日は2問であります。

1問目は、人口減少対策について伺います。

町の人口は、平成28年の合併時3月末時点で9,277人でした。町では歴代町長のもと、子育て支援などの様々な対策をとってきましたが、人口減少に歯止めがかからず、本年2月28日で6,461人となりました。合併以来17年で2,816人減少し、1年で平均165.6人が減少したことになり、この1年間では210人が減少しています。年間出生者は令和3年で13人であり、このままでは1桁になりかねない状況であります。これ以上人口減が進むと、税収の減少、公共交通の廃止、店舗撤退、空家増加など、時間が経過するほど状況は悪化します。人口減少は八峰町だけの問題ではなく、日本全体の問題であり、岸田総理が年頭記者会見で「異次元の少子化対策、子ども予算倍増」を掲げましたが、その支援策や財源は未だに示されておられません。以上のように、人口減少対策が八峰町にとって最重要課題であり、待ったなしの状況にあることは疑いようがありません。

そこで町長に伺います。

町長選出馬に当たり、「人口減少対策」を最大の課題であると訴えました。しかし、前町長の急死に伴う選挙であり、出馬表明から告示まで2週間あまりと短く、しかも年末年始を挟んでいたこと、また、無投票当選であったことから、町民に向け、その具体策を語るができなかったのではないのでしょうか。人口減少対策の具体策をお聞かせ

ください。

2 問目、続いてはマイナンバーカード取得の促進についてについてであります。

2013年5月から運用が始まったマイナンバーカードの申請状況は、令和5年2月12日には全国で68.8%、2万円のマイナポイントが受け取れるキャンペーンが終了した3月5日では75.1%となっています。町でもキャンペーンによる駆け込み申請で申請率が上がったことと思いますが、1月末現在で49.8%であり、県内25市町村の最下位であります。町長はその要因をどのように捉えているのか。また、取得向上のための施策を伺います。

以上、2問であります。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの1番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。
堀内町長。

○町長（堀内満也君） おはようございます。笠原議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、「人口減少対策」についてであります。

八峰町が現在抱えている大きな課題は、議員同様に急激な人口減少であると考えており、こうした状況に積極果敢に立ち向かい、「ふるさと八峰の創生」にチャレンジしていくため、次の3つを施策の柱に据えたいと考えております。

1つ目は、「農林漁業の振興」であります。

農業分野においては、本町が重点的に実施している菌床しいたけやネギ、大豆等の生産拡大を図るとともに、しいたけのブランド化を目指すほか、カミツレやキキョウなどの生薬栽培では、生産組合主導による生産者及び栽培面積の拡大に繋がる取り組みを推進してまいります。

また、漁業分野においては、漁業者の所得向上と担い手の確保を目指し、「サーモン養殖事業に関する四者協定書」に基づく事業支援を行うほか、ギバサ藻場の再生を目指す「藻場再生調査」やアワビの資源減少の原因究明と効果的な資源管理方法の確立を目指す「アワビ資源対策調査」等を実施してまいります。

2つ目は、「女性が活躍できる環境づくり」であります。

女性の様々な意見を町政に反映させ、地域や職場で女性が個性と能力を存分に発揮するため、女性自身の意識改革や経営者の理解促進に努めるとともに、役場における女性職員の管理職への登用についても検討してまいりたいと考えております。

なお、具体的な事業につきましては、今後検討を加速させ、経費が必要となる場合は

関係予算を議会に提案してまいりたいと考えております。

3つ目は、「洋上風力発電の推進」であります。

地域の活性化や人材の定着に繋がるよう、県や地元商工会等と連携を図りながら、関係産業の育成支援や人材の受け皿となる企業立地の促進に努めてまいりたいと考えております。

このほかにも、「コロナ後を見据えた観光振興や高齢者等が住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けることができる社会の実現」に向けた取り組みなどを進めてまいります。

いずれいたしましても、「人口減少」という大きな課題の克服は、一朝一夕で成し得るものではなく、多くの時間を要するものと考えておりますが、八峰町の発展と成長、そして、何よりもふるさと八峰を愛する全ての町民のため、諦めない強い心を持って、粘り強く全力で取り組んでまいりたいと考えております。

次に、「マイナンバーカード取得促進」についてであります。

県内市町村で交付率が最下位にとどまっている要因としましては、現在実施している「休日受付窓口」など、町民の利便を図る取り組みの実施が他の市町村に比べて遅れたことや、大型商業施設や新型コロナワクチン接種会場等での「出張受付窓口の開設」や「商品券等の交付」等の積極的な取り組みも行わなかったことなどが影響したのではないかと考えております。

国の「マイナポイント事業」は終了しましたが、国において2024年秋にマイナンバーカードと保険証の一体化を図る方針が決定されたことから、今後、カードの必要性が高まり、カード取得の希望が増えることが予想されます。

このため、令和5年度において、タブレット専用端末による「出張受付窓口」事業を実施するための予算を今議会に計上しているほか、引き続き「休日受付窓口」の設置や広報等で周知を行うなど、取得を希望する町民への利便を図り、交付率の向上に取り組んでまいりたいと考えております。

私からは以上であります。

○議長（皆川鉄也君） 1番議員、再質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） 今、町長から答弁いただきました。農林水産業、女性が活躍できる、風力発電、もっともでございます。これを是非促進していただきたいんですが、でも、この施策だけではですね人口減少のスピードを抑えることができても、人口を増やすということはできないのではないかと私は思うわけです。毎年、さっき私言ったよう

に165.6人の人口減少が平均であるわけです。これを上回る人口増を目指さなければ、人口は減っていく一方なんですよ。

で、じゃあどうやってその人口を増やすか。多分これを議場にいる皆さんが、この200人もの人口増できるわけないと多分心の中で思っているでしょうけども、実際これを行った事例があるんです。まず1つ目、これは平成27年、私が議員になった年ですが、視察で長野県下條村というところに行ってきました。平成9年から平成18年にかけて、若者定住促進住宅、マンションタイプ124世帯分、一戸建て住宅54戸、計178世帯分の若者定住促進住宅を造って、そこに近隣の飯田市から移住者が多く駆けつけて、もうベッドタウンになってるんですね、この飯田市の。で、この入居者の7割が村外から、主にこの飯田市からの移住であります。で、令和4年、去年ですが、長野県南箕輪村というところに行ってきました。ここはですね母親に大変な支援をしております、南箕輪村ネウボラ、これは平成29年から妊娠から18歳まで途切れのない支援。再就職サポートセンター、子育てが終わった、手がかからなくなって再就職したいという時に、それをこう斡旋してくれる制度ですね。で、役場内に子育て支援課というのがある。人口1万6,000人ですけど、今、77.3%が移住者なんです。近隣の伊那市、箕輪町、駒ヶ根市から移住してきて、やはりベッドタウンとして人口を増やしています。これは総務民生常任委員会で去年訪れた岡山県奈義町です。これ、皆さんも報道で知ってると思いますが、2月には岸田総理も視察に訪れております。なぎチャイルドホーム、奈義しごとえん、手厚い住宅支援などで、近隣の津山市、美作市から移住、やはりベッドタウンとなっています。こういうですね、ほかから視察に、総理まで視察に来るようなことをやってる町が実際あるんです。前に森田町長の時には、この11月の視察の話は森田町長とする前に残念ながらお亡くなりになってたんですが、長野県の下條村に関しては、我々議員から何度もこう議会の場で名前が出てくるものですから、コロナが収まったら是非下條村を訪れて、向こうの村長さんの話を聞いてみたいということをおっしゃっていただきました。残念ながらかなわなかったんですが。

町長はあれでしょうか、この私が今例を挙げた3町に視察に行ったらいかがかなと。聞くと見るとでは大違いだと思しますので、その辺はどうでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 笠原議員のご質問にお答えいたします。

その3町の視察につきましては、当然ながら八峰町も相当勉強になる部分があると思

いますので、私も新年度になってなるべく早い段階です、そういったところの先進地の視察を行ってまいりたいというふうに考えております。

そしてまた、議員の方からもお話のありました岸田総理の異次元の少子化対策、これについても町としてどういったことができるのか、議員の話にもありました住宅支援、あるいは子育て支援、八峰町でもやってるわけでありまして、おそらく足りない部分があるというふうに私も考えておりますので、そういったところについてもしっかりと対策を検討していきたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） この人口減少が進んでいる秋田県、しかもこの山本郡内で若者を奪い合ってもしょうがないというそういう考えもあるのは確かなんですが、私は奪い合わなければいけないと思っております。能代のベッドタウンを目指すべきだと思っております。手厚い住宅支援、子育て支援で近隣市町よりも手厚い支援で若者を呼び込む。異次元の子育て対策といえますか、少子化対策、国のそれ待っていたら町なくなりますよ。いつになるか分かりません。この間、新聞報道にもありましたけど、財源もどこから求めるのかも決まっていない。で、子どもを生んだら奨学金免除なんていう馬鹿な案も出てるという、そういう国の対策待っていたら八峰町なくなりますので、能代から若者をどんどん移住する、能代のベッドタウンになる、そういった気構えはありませんか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） ご質問の能代のベッドタウンということに関しましては、私もそのとおりで思っておりますし、それを目指したいというふうにも考えております。

一方で、町の財源的には、ご承知のとおり相当厳しいものがございますので、そういったところも全て勘案してですね、できるところ、できないところ、あると思っておりますけども、いずれにしましても人口減少対策として居住対策、そしてまた能代市のベッドタウンになるようにしっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） そもそも子どもが生まれるには結婚しなきゃいけないわけです。私の周りにもこう指折って数えてみると、子育て世代、30代、40代で未婚の方が結構いらっしゃると思います。皆さんの周りにもいるんじゃないかなと思います。そうした方々、まあこれは非常にプライベートな問題で踏み込みづらいことだとは思いますが、町の施策で出会い創出の事業80万円の予算がついています。これまでもついていたと思いますが、

これまでどういうことをやってきたのか、そして今年度はどういう事業をやるつもりなのか。町長あれでしたら担当課長で結構ですので、お願いいたします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。高杉企画財政課長。

○企画財政課長（高杉泰治君） ただいまの笠原議員のご質問にお答えいたします。

町の方ではこれまで、結婚サポーター等を活用しながら出会い関係のイベントを行っております。また、平成の時代ですけれども、商工会さんとか、あと会場をハタハタ館で、ある一定の独身の職場に勤めるような方々を集めまして交流会といたしますか、出会いの場を設けております。で、今年につきましても、コロナ禍の方がかなりこう落ち着いてきましたので、また結婚サポーターの方の意見を聞きましても、出会いをした時に単発だけではなくて、同じ人と2回、3回行き会う機会があった方がいいという意見もいただいておりますので、今年につきましてもまた商工会と関係団体、そのハタハタ館を利用したりしながらそういった交流の場の方を設けていきたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） 今課長がおっしゃった、正にそのとおりだと思います。1回で終わったら何の意味もないです。かなり私議員になるまでのかなり前ですが、私の店でもそういった創出のやったことありますけど、それで当時はガラケーの時代でしたけれども、来た男女がメール交換したり、コンサートもやって、コンサートを聞いてメール交換してお酒飲んで、ああ、いい雰囲気だなと思いましたが、それっきりなんですね。だからそれをね何回か繰り返すことによって、私はそういうカップルも生まれる可能性があるのかなと思いますので、是非頑張ってくださいと思います。

それと、これで最後にしたいと思いますが、何回も言ってますけども、簡単なことではありません、人口減対策は。町長も先進地に行って研修を積まれて、八峰町版の異次元の人口減少対策、少子化対策を打っていただきたいと思います。待ったなしでございませぬ。国の施策は待ってられません。そういう暇はありません。時間はありません、八峰町に。どうでしょう、最後に決意をお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 正に議員おっしゃるとおりだというふうに思っております。しかしながらですね、先ほど答弁でもお話ししましたけども、八峰町も相当財源が厳しいと

いった状況もございますので、いずれそういったところもしっかりと勘案しながら、人口減少対策にしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） 2問目についての再質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） マイナンバーカードについての質問ですが、私はですね、やっぱり町民が漠然と、このマイナンバーカードについて不安を持ってるんじゃないかと思うんですよ。個人情報漏洩するとかですね、そういう誤解といいますか、そういうものがマイナンバーカード取得を鈍らせてるんじゃないかなと思っております。それで、そもそも今、マイナンバーカード持っていても住民票とかがコンビニで取れるぐらいで、今そんなに必要ないという考え方もあります。で、やっぱり今一番多いのは、私の知人ではもう絶対取らないという人も中にはいるぐらいで、それはやっぱり紛失したら全ての情報がばあっと拡散されるんじゃないかとかということ、要は免許証を紐付ける、保険証を紐付ける、銀行口座の紐付けるといったことは、漠然とした自分は国に管理されるんじゃないかみたいなそんな不安があると思うんです。これは本当は町がやるべきじゃなくて国がやるべきだと思うんですが、こうした不安をですね取り除かないと、そういった人はなかなか申請に来ないと思っております。丁寧な説明を広報とかでやる、そういった考えはないでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 笠原議員のご質問にお答えいたします。

正にですね、町としましてもこの周知に努めていかなきゃいけないというふうな考えがありますので、広報はもちろんですね、その休日受付窓口の設置など、引き続き対応してまいりたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） 質問といいますか、多分こういうこともあるんじゃないかなと思うんです。私だけじゃないと思いますが、この「紐付ける」という言葉なんですよ。これがね非常に、私、最初聞いた時から「うん？」っていう何か違和感があるなと思っております。で、多分総務省の役人か何かが「紐付ける」というふうな言葉を使ったからそうなんだと思います。で、ちょっと「紐付ける」ということをね、ちょっと調べてみたんですよ。したら、今の若い人が使う「紐付ける」というのはコンピューター用語、バインドという言葉があって、特定のデータと別のデータを相互に関連付けるというふ

うに使われる、それを日本語にして「紐付ける」にしたので、多分総務省でもこれを「紐付ける」にしたと思うんですが、ただ我々高齢者にとってはね何か違和感があるなと思って、ちょっと「紐付ける」という意味もちょっと、ほかの意味もあるんじゃないかと思って調べてみました。したらこういうことが出てくるんですよ。娼婦の行動を縛って働かせ、それで暮らしている男。さらに、広く背後から操って、その利益を吸い上げるような存在とあって、「紐付け」は、行動が縛られる、背後関係があることとあって、例として社長の紐付けの社員、あの女は紐付きだとか、そういう言葉がある。こういうことはね悪いイメージが私の中にあってですね、どうもこの保険証と紐付ける、免許証と紐付けるっていう言葉がどうもピンと来ない。そういうこともこの取得を鈍らせている要因の一つになるのではないかなという気がして、まあこれは答弁求めませんが、そういうことであります。

それで、あとマイナンバーカードの市町村別の交付、これ今年の2月末時点で男女別、年齢別というのがあるんです。で、まあこれは全国ですから八峰町には当てはまるかどうか分からないですが、中高年、若者とか中年といいますかね、40歳、30歳から50歳ぐらいまではですね女性の方が取得率高いんですよ。で、65歳を過ぎた高齢者になるとこれが逆転して、男性の方が高くて女性が低くなるんです。この要因をどう捉えるかとなると、私は八峰町に当てはめて考えると、そもそも役場に来る手段がない。免許がない。車がない。誰かに乗せてきてもらわないとマイナンバーカードを作れない。そういった高齢女性が多いのではないかなという気がしておりますが、町長はその辺の見解はいかがですか。

- 議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。
- 町長（堀内満也君） 高齢者は男性の取得率が高い、そしてまた逆に若い方々は女性の取得率が高いということで、まあなかなか、今、八峰町が置かれた現状がそのまま反映されてるのかなというふうに議員同様に私も考えております。いずれそういった足の確保なんかにしてもですね、今、デマンド有償のタクシー、あるいはバスなんかもやっておりますので、そういったところも含めた広報、そしてまた住民への周知をしっかりと行っていきたいというふうに思っております。
- 議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。1番笠原吉範君。
- 1番（笠原吉範君） これで最後にしたいと思いますが、やはり私は足の確保と町民の不安を取り除くことが一番の取得率向上に繋がると思っております。マイナンバーカー

ドは行政の効率化の目的にしている、利用の範囲は社会保障・税、災害対策の分野に限られるんだと。紛失しても暗証番号が知られない限りは情報は漏洩しない。情報は国が一元管理でなく分散管理であって、一気に情報を拡散することはない等々ですね、こういうことを町民に知らしめる必要があると思います。その辺をもう一度答弁をお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） そうした不安を取り除くことにつきましても、先ほど言った広報等でですね、しっかり周知して、さらなる取得率向上に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。

○1番（笠原吉範君） ありません。

○議長（皆川鉄也君） これで1番議員の一般質問を終わります。